



2024年10月31日

長野地域脱炭素実現推進協議会

長野市地域ぐるみでの脱炭素推進プログラム

経営戦略としての脱炭素推進が採用に好影響をもたらす

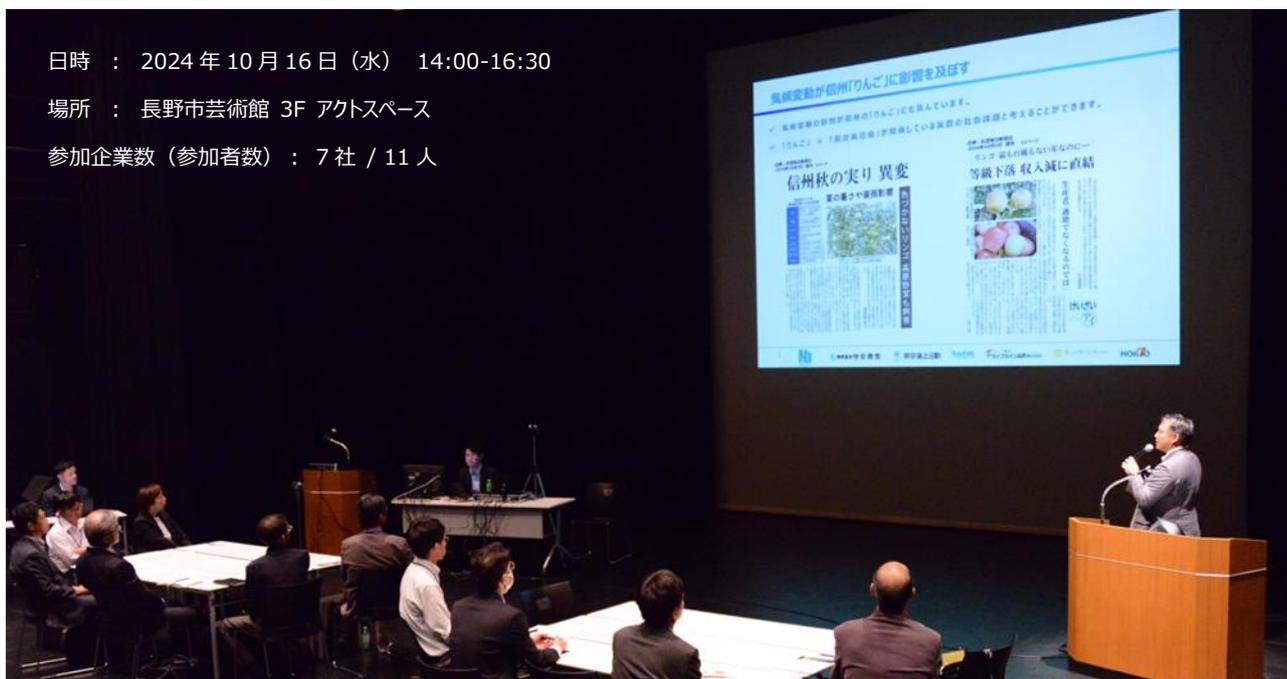
「人事採用責任者向け 企業価値向上セミナー・ワークショップ」 Day1レポート

主催：長野市・長野地域脱炭素実現推進協議会

日時：2024年10月16日（水） 14:00-16:30

場所：長野市芸術館 3F アクトスペース

参加企業数（参加者数）：7社 / 11人



【 Day1 】プログラム

- (1) 開会の言葉 : 長野地域脱炭素実現推進協議会事務局 岡田
- (2) 主催者挨拶 : 長野市 環境部 環境保全温暖化対策課 中野主幹
- (3) 開催趣旨説明 企業が脱炭素経営に取り組む理由: 長野地域脱炭素実現推進協議会事務局 田原
- (4) 脱炭素経営の重要性・カーボンニュートラルレッスン : ポストンコンサルティンググループ 石津
- (5) 「持続可能な未来の実現に向けたサーキュラーエコノミー（循環経済）の推進 : 事務局 田原
- (6) 令和5年度地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業の成果を学ぶ
・島根県雲南市の取り組み事例のご紹介（雲南市役所 市民環境部 松蔭様/島根大学 中谷様）
- (7) 脱炭素経営推進が人材採用に好影響をもたらす
・雪ヶ谷化学工業株式会社 代表取締役社長 坂本 昇 様による取り組みのご紹介
- (8) 参加企業による意見・情報交換

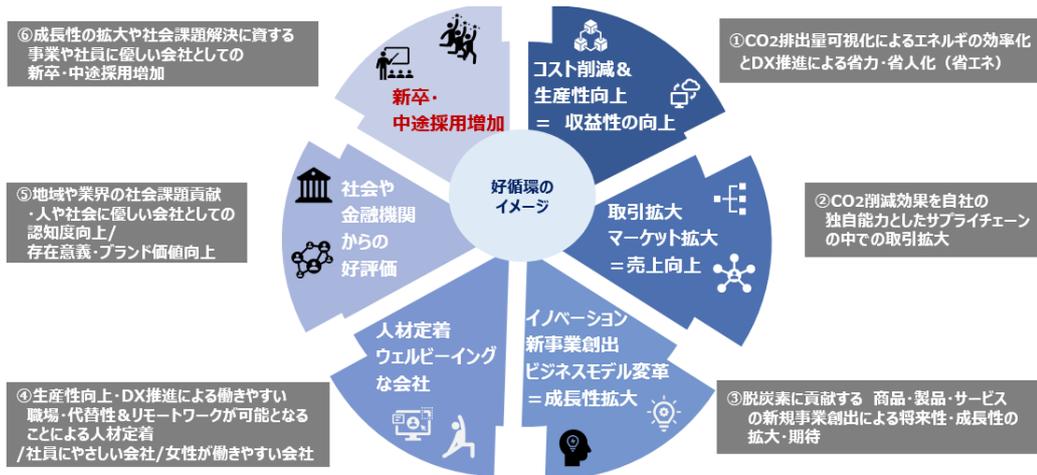
企業が脱炭素経営に取り組む理由…協議会事務局 田原 伸洋（東京海上日動火災保険株式会社）

脱炭素経営推進は、全ての企業価値を最大化させることのできる可能性があります。

脱炭素経営推進により、「コスト削減&生産性向上がもたらす収益性の向上（DX化による省エネ）⇒取引拡大・マーケット拡大による売上高向上⇒イノベーション創出&ビジネスモデル変革から自社の技術やサービスを他の企業が求める機会が増え成長性が拡大⇒働きやすい職場、組織活性化につながることで、人材が定着し、地域社会や金融機関からも応援される⇒次世代が働いてみたいと思える企業の実現」という好循環がもたらされます。脱炭素推進を経営戦略に落とし込み、経営戦略として実践していくことで、ブランド構築がなされ、持続可能な企業として地域社会に広く認識されることになります。

企業価値とは：利益・売上・株価・収益性・生産性・成長性・財務基盤・人材定着・人材採用・顧客満足度・ブランド価値・競争力・無形資産（独自能力）・人材育成力・組織一体感・従業員満足度 etc.

なぜ企業が脱炭素推進に取り組むのか - 企業価値を最大化する脱炭素経営 -



* 2024年7月17日 長野地域脱炭素実現推進協議会 総会と同様の資料にて説明を実施

脱炭素経営が企業価値を最大化できる地域課題解決戦略！

脱炭素経営の重要性・カーボンニュートラルレスン…石津 朝弘（Boston Consulting Group）

カーボンニュートラルとは大気中への人為的なCO2排出について、排出と回収・吸収のバランスをとり、実質的にゼロにすることです。地球全体でカーボンニュートラルを実現する方法は、以下の3つとなります。

- 1：GHG(温暖化ガスの一つがCO2)の人為的な排出を減少させる
- 2：人為的に新たにGHGを回収・吸収し、長期にわたり固定化させる（CCS 二酸化炭素貯留技術）
- 3：GHGの自然吸収を増加させ、長期にわたり固定化させる（植林、海藻の養殖）

脱炭素経営とは単なる脱炭素に向けた取り組みではなく、気候変動対策の視点を織り込んだ企業経営のこと。経営的視点でCO2排出量削減を含めた課題解決事業を実施することで、事業創出と企業価値向上により持続可能な企業と認知されます。

自発的な企業は、脱炭素を売上・コスト及び経営資本に関する課題解決の手段とし、事例2社紹介。また脱炭素経営推進による採用における好事例も3社をご紹介致しました。

持続可能な未来の実現に向けたサーキュラーエコノミー（循環経済）の推進

…協議会事務局 田原 伸洋（東京海上日動火災保険株式会社）

「循環経済（サーキュラーエコノミー）」とは、「付加価値」を生み出す経済活動であり、資源・製品の価値の最大化、資源消費の最小化、廃棄物の発生抑制等を目指し、現在では「環境負荷の低減」までを含めた考えになっています。循環経済の実現とは、これまでの調達、生産、消費、廃棄といった流れが一方の線形経済（リニアエコノミー）から、新しい経済に転換する大きく経済・社会を変えていく取

組です。循環経済への移行は、気候変動、生物多様性の保全、環境汚染の防止等の環境面の課題と合わせて、地方創生や質の高い暮らしの実現、産業競争力の強化などといった社会課題の同時解決にもつながるものであり、国家戦略として取り組むべき重要な課題とされています。



令和5年度「地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」に学ぶ

島根県雲南市の事例…雲南市役所市民環境部・島根大学学生（オンライン）

就職先企業に決めた理由で最も高かったのは 3年連続トップで「社会貢献度が高い」！

島根県雲南市は、人口約 36,000 人、高齢化比率 40.1%、世帯数 12,432 世帯で中山間地域で全域が過疎指定。コウノトリが 8 年連続で 3~4 羽巣立つ地域（全国最多）です。令和 4（2022）年 6 月脱炭素宣言。令和 5 年度環境省「地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業」に採択され、その取り組みを地域事例として発表していただきました。

目標：2050 年までに脱炭素社会を実現。そのために組織を市長トップの本部会議のもと、副市長トップのプロジェクトチームを設け全庁体制で推進。また事務局体制も専任者と他部局からの兼務で部局横断的に強化し、行政、教育機関、市民、事業者一体となって推進する体制が組み立てられました。脱炭素社会実現計画の実現プロジェクトとして、1：再生可能エネルギーの推進、2：省エネの推進、3：森林資源の活用、4：ごみゼロの社会の実現を推進し、全体を支える仕組みに人材育成を据え 2020 年の数値から温室効果ガス排出量の将来予測を立て計画に沿って進めています。また事業者アンケート調査で出てきた「なぜ脱炭素の取り組みが進まない理由」は、最も多いのは「社内の知識・経験等の不足」、次いで「事業の利益に結び付きにくい」となりましたので、まず基礎的な脱炭素知識を高校生・大学生と一緒に企業の方に学んでいただき新事業開発へと落とし込みをしています。

若者たちの就職動向では、Z 世代の人たちは環境負荷の少ない買い物をする意欲が高く、その理由として「気象の変化を実感しているから」としています。ついで就職先企業に決めた理由で最も高かったのは「社会貢献度が高い」が 3 年連続でトップ。企業のサステナビリティを重視している学生が約 80%。取り組んだ生徒から、「利益だけでなく地域に密着しており、社会問題に取り組むことができる会社」、「社会・地域貢献と利益を両立することができ、また新しい事にも積極的に挑戦する会社」などを働きたい会社と上げています。脱炭素社会の実現には行政はもちろん企業だけでなく住民と次世代の協働が必須であると伝えてくれました。

脱炭素経営推進が人材採用に好影響をもたらす

…雪ヶ谷化学工業株式会社 坂本 昇 代表取締役社長（オンライン）

採用一人の募集に、なんと 200 人が応募！

化石燃料由来の化粧品スポンジを主力製品として、化粧品メーカーでの世界シェア 60%超のニッチトップメーカーでしたが、近年アジアメーカー等の追い上げも激しく 2020 年それまでの CSR 活動を一歩進め、SDGs を会社経営の指針として全社・全領域での SDGs プロジェクトをスタートした。第 7 回ジャパン SDGs アワード SDGs 推進副部長賞他数々の賞を獲得。

主力製品を石油由来の合成ゴムから植物由来の天然ゴムに変更することによって、天然ゴムの生産者、中には児童労働も含めた人権を守るフェアトレードにアプローチし、また天然ゴムのアレルギー物質除去にも成功し GX と人権問題を同時に解決していこうと考えました。2019 年秋に石油由来からの脱却を目指して、天然ゴムに行き着いた。東南アジア支社の調査でわかったことは、生産者の人権が不当に扱われていたこと。そこで人権問題の解決にもなるフェアトレードを提案し、新製品を植物由来の天然ゴム使用 + フェアトレードで SDGs に

本格的に取り組み始めた。なぜなら世の中に必要な良いものの価値を伝えるためにはそこをいつも考えている組織でないと説得性がない。世界中の社会課題に精通していないと説得・納得させられないので、社会課題解決できる GX 製品をたくさん販売する営業から生産まで全社でサステイナビリティ活動意識を高めない限り販売に結びつかないと考えたので社内の意識を GX 推進ワークショップで高めていった。そして目標である CO2 ゼロ・廃棄物 50%・再生可能原材料 50%を達成するためにはお客様自身が変わっていただかないと進まない。GX 製品が売れば売れるほど CO2 ゼロ・廃棄物 50%・再生可能原材料 50%の SDGs 達成に貢献できエシカル商品の購入に至ることになります。いろんな活動を通じてメディアから注目いただきたくさんの露出していただいた効果からだと思いますが、採用にとっても考えられない成果が出ました。人員補充のために採用をしていたのですが、採用一人の募集に約 200 人が応募してきて結果、良い人材を 2 人採用に至りました。その他いろいろな取り組みをすることで社内のコミュニケーションが活発になり、特に一人ひとりの視点が上がり、「地球環境が良くなるため」の商品開発や「地球環境が良くなるため」の製造部門の効率化などアイデアがいろんな社員から上がってくるようになりました。また工場部門の発案から弊社が発起人となり立地する茨城県稲敷市の下太田工業団地下太田第 2 工業団地 17 社と共に、サーキュラーエコミーやカーボンニュートラルをパートナーシップで目指す日本発の SDGs 団地「(inashiki Sustainable Industrial Park)」をスタートさせました。

【 具体的な企業価値向上のストーリー 】

✓ 新たな挑戦

2020 年春、世界が SDGs（持続可能な開発目標）に注目する中、雪ヶ谷化学工業も新たな挑戦を決意しました。環境に優しい製品づくりを目指し、全社を挙げて SDGs への取り組みを開始しました。

✓ GX（グリーントランスフォーメーション）の推進

石油由来原料を削減、フェアトレード天然ゴムを使用、サステナブルなスポンジ製品を開発しました。ただ製品を作るだけでなく、児童労働や強制労働といった社会問題の解決にも寄与することができました。

✓ 社内の変革

同時に、社内でも大きな変革が進みました。社員全員が参加する勉強会やワークショップを通じて、SDGs と GX の理解を深め、「BtoB to the Future」というスローガンのもと、CO2 排出量削減や廃棄物削減などの目標を設定しました。

✓ 初めての成果

その成果はすぐに現れました。メディア露出が増え、企業の認知度が急上昇したのです。さらに、採用活動もスムーズに進み、1 人の募集に対して 200 名以上の応募が集まるようになりました。社内のコミュニケーションも活発化し、働きやすい環境が整備されました。

✓ 地域との連携

また、雪ヶ谷化学工業は地域の工業団地全体での GX 推進協議体を設立し、共同での脱炭素プロジェクトを進行しました。これにより、地域全体での環境改善にも一役買うことができました。

✓ 未来への展望

雪ヶ谷化学工業は今後も GX 製品の普及を目指し、さらなる活動を続けるとともに、次世代リーダーの育成にも力を入れています。

✓ エピローグ

このようにして、雪ヶ谷化学工業は GX 推進を通じて環境問題への取り組みを強化し、製品価値と企業価値の向上を実現しました。これにより社内の活性化や人材採用の成功も達成し、企業としての基盤をより一層強固なものにしました。

ご参加者の声

- ・ 社会貢献活動がブランディングに繋がり、採用に有利なることを社内周知し、役員を交えて今後の CSR 活動推進について共有したいと思います/協議会活動や脱カーボン経営を対内外にアピールし、企業イメージを向上させる。それにより求人応募者を大幅に増やしたい。企業イメージを向上させる手法・アピールの仕方等を教えていただきたい。そしてより多くの学生とのコミュニケーションの場を設けてほしい（建設業）
- ・ 学生の SDGs や脱炭素に対する興味・関心が高いことを採用に関わる関係者に共有したいと感じた。就職説明会で、当社事業と SDGs や脱炭素への関わりを盛り込む必要性も感じた。（ライフライン業）
- ・ 自社内の活動不足と情報発信不足の改善、総務と役員だけで進めている「脱炭素推進」「SDGs」の活動を全社に広げたいと思った。（サービス業）
- ・ サークュラーエコミーは当社でも実践しており、その取組みをどのように紹介するか、社内でも共有し、資料作成に着手しています。貴協議会および長野市様、長野商工会議所様等と連携してカーボンニュートラルに取組み、実績を残したいと思います。個人的に、大学で勉強したことは社会でいつか役に立つと思っていますが、面接する理工系学生は、いま取組んでいる研究ができる会社に就職したいと考える方が多いように感じます。次回参加いただく学生さんや大学が、どのように考えているか、お聞かせいただきたいと思います。（製造業）

人事・採用部門/責任者限定 専門プログラム

経営戦略としての「脱炭素推進」が採用に好影響をもたらす企業価値向上セミナー・ワークショップ

採用活動に好影響をもたらすために「3回」のセミナー・ワークショップにて実践的脱炭素経営採用をお伝え致します

場所 長野市芸術館アクトスペース

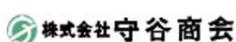
主催 長野市 長野地域脱炭素実現推進協議会

Day1	Day2	Day3
カーボンニュートラルの基本を学ぶ	学生の「教育」「価値観」を知る	自社の強みを採用活動に繋げる
<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素経営の重要性 カーボンニュートラルレッスン 脱炭素経営推進による採用好事例企業紹介 自社に脱炭素貢献のソリューションがなくても脱炭素貢献が可能なサーキュラーエコミー 	<ul style="list-style-type: none"> 現代の学生が考える「良い企業」「良い地域」 「学生」から学ぶゼロカーボン・地域貢献 「先生」から学ぶゼロカーボン・地域貢献 	<ul style="list-style-type: none"> 学生と共に考える「魅力的な企業」の発信方法 学生とともに考える「新規事業の可能性」 脱炭素経営をベースとした採用活動・採用計画へのヒント
日時 10月16日(水) 14:00~16:30	11月8日(金) 14:00~16:30	12月11日(水) 14:00~16:30



以上

長野地域脱炭素推進 BOARD 事務局



長野地域脱炭素推進 BOARD